

環境先進国

ドイツから学ぶ

4

吉田 浩巳



引き続き、ドイツにおける環境への取り組みを検証したいと思います。

前回、ドイツの町を歩いているとタバコのポイ捨てが目につくことや、駅のみ箱が分別のために名称だけでなく色分けまでして並べられているにもかかわらず、紙専用の箱にペットボトルが一緒に入っていると聞いた状況をお伝えしました。環境先進国と言われる

ラント・ファルツ州にある州環境情報センター。ドイツは16の州で構成されています。同州は、岩手県よりも3割程度広く、人口は390万人で静岡県と同じくらいです。州内をライン川が南北に縦断しています。また、川沿いに点在する古城はとても優雅で歴史を感じさせる有数の観光名所

ソーラー発電の普及

政府の買い取りが高値

ドイツに対して大きな疑問を持ちながら、政府関係者や環境NPOの方々に話を聞きました。

まず最初に訪問したのは、ドイツ南西部のライン

で、世界的にも有名です。同センターへの訪問目的は、ローランド・ホーン所長にドイツの環境保護などについて話を聞くためでした。

ホーンさんは、大学で英語と政治学、神学を専攻し、卒業後はマスコミ関係の仕事に従事。その後10年間、同州環境省の広報責任者として活躍し、マインツ市内の「森の幼稚園」の設立にも深く関与されました。

本題に入る前に、同省の施設について紹介しましょう。省内では約250人が働き、この一角に州環境情報センターがあります。同省の建物では太陽光(ソーラー)発電を行っていて、出入り口に現在の発電量が一

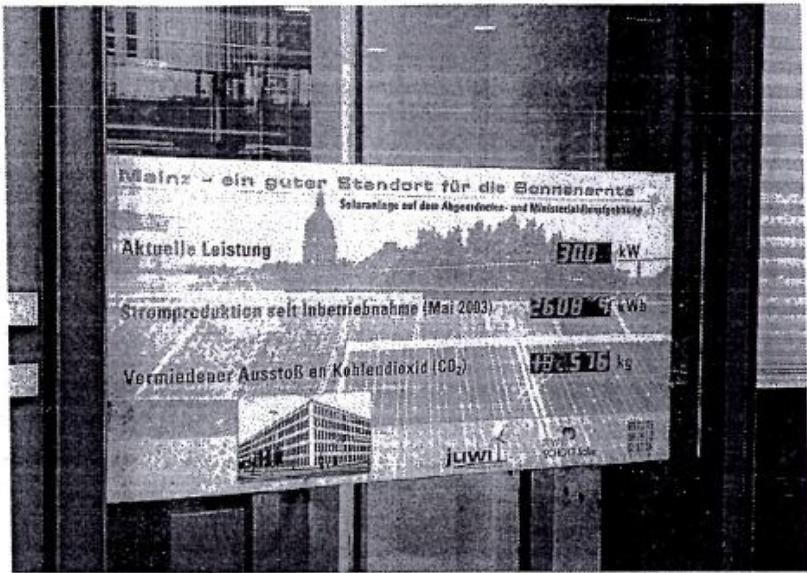
目でわかる掲示板が設置されています。

ソーラー発電の導入は、ドイツ政府の環境対策の大きな柱の一つです。ドイツでは、ソーラーパネルを設置した家を数多く見かけることができます。

なぜドイツでソーラー発電が普及したのでしょうか。それは、政府の電力の買い取り価格が日本の約3倍であることが挙げられます。言い換えると、日本の約3分の1の期間で設置者が減価償却できるといえます。日本でソーラー発電を普及させる戦略を取るのなら、ドイツのように電力の買い取り価格を上げれば、さらに普及が促進するのではないかと思っています。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

二つ二つ



環境省の建物の玄関にはソーラーパネルが設置してあり、表示板では現在の発電量が分かる